

縄文時代 [約12,000～2,300年前]

縄文時代は約1万年間続いた時代です。土器の器形や文様の特徴から、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期に区分されます。温暖化した気候のなかではじまった草創期は、土器と弓矢が発明され生活に大きな変化をもたらしました。気候が安定する前期から中期にかけて、大きな集落が営まれるようになります。後期に入ると気候は再び涼しくなり、遺跡の数も少なくなります。晩期になると、精巧な土器や遮光器土偶など呪術的な遺物が多くなります。



縄文時代の土器（早期～晩期）

盛岡を

発掘する

第22回埋蔵文化財調査資料展

平成16年度
調査
速報

2005.2.1 ▶ 3.21



奈良・平安時代の土器

奈良・平安時代 [約1,300～800年前]

古代東北地方の人々は「蝦夷」とよばれ、朝廷支配の外にありました。古墳時代の終わり頃から平安時代のはじめまで、一族の長たちは小さな古墳に葬られました。その後朝廷の支配は地方に及び、胆沢城（802年 水沢市）・志波城（803年 市内太田）といった城柵が造られました。志波城は812年頃に徳丹城（矢巾町）へ移転します。これ以降ムラの数は増加し大島遺跡（羽場）、林崎遺跡（下太田）、堰根遺跡（浅岸）など地域の拠点と思われる集落が出現します。

しわじょうあと
志波城跡第97次調査 (下太田)

志波城跡は延暦22(803)年に坂上田村麻呂によって造られた城柵跡です。今年度は、政庁(中心の儀式を行った場所)の南西側の官衙域(実務を行っていた場所)の調査を実施し、竪穴住居跡1棟が見つかりました。一辺約6.5mの方形で、かまどは東側に3基あり、2回の作り替えが認められました。多くの土器が見つかり、「答か?」、「万」などと書かれた墨書土器も出土しました。これまでの官衙域の調査で、大路をはさんだ東側には規則的に建物が配置されていましたが、西側は建物の密度が薄く、使われ方が違っていったことが分かっています。



調査区全景

つなぎごいせき
繫V遺跡第28次調査 (繫)

繫V遺跡は、御所ダム南岸の山麓台地に立地します。これまでの調査によって、縄文時代中期(約5,000~4,000年前)の竪穴住居跡が重複して見つかると、拠点的な大集落が長期間にわたって営まれてきたと考えられます。今年度は、昨年度から継続して市道建設にともなう調査を実施し、その結果、縄文時代前期(約5,500年前)の竪穴住居跡3棟、縄文時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡26棟、土坑7基などが見つかりました。出土した遺物は、竪穴住居跡の床面の下に土器を逆さに埋めた伏甕が3点、ほかに土偶頭部や石器などが数多く見つかりました。



伏甕出土状況

もとみやくまどう いせき
本宮熊堂B遺跡第28次調査 (本宮)

本宮熊堂B遺跡は、盛岡南新都市開発整備事業にともなう事前調査を実施しました。今年度の調査では、竪穴住居跡は9世紀後半のものが6棟、10世紀中頃のものが2棟、そのほかに古代の土坑3基、古代の竪穴跡1基、溝跡などが見つかりました。10世紀の竪穴住居跡からは篋書土器「閉□」が出土しており、閉伊地方(沿岸地域)との交流が考えられます。



調査区全景

のっこいせき
野古A遺跡第25次調査 (本宮)

盛岡南新都市開発整備事業にともなう事前調査を実施しました。今年度の調査では、奈良時代の竪穴住居跡1棟、平安時代の竪穴住居跡3棟、奈良時代の土坑1基などが見つかりました。奈良時代の竪穴住居跡は、1辺が6m、深さ0.8mをはかる大型のものでした。床面からは6口の柱穴と、仕切状の溝が7本見つかると、竪穴住居跡の構造を考える上で貴重な資料となりそうです。平安時代の竪穴住居跡は、床面より多量の炭化材が出土しました。これまでの調査でも、野古A遺跡内ではこのような炭化材が多量に出土する平安時代の竪穴住居跡のほかにも数棟見つかりました。



奈良時代の竪穴住居跡

せきねいせき
堰根遺跡第13次調査 (浅岸)

堰根遺跡は中津川と米内川の合流点付近に位置し、平成8年度から土地区画整理事業にともなう調査を実施しています。これまでの調査で縄文・弥生・平安・中世に至るいろいろな時代の遺構・遺物が見つかりました。今年度の調査では、縄文時代の竪穴住居跡8棟、陥し穴15基、貯蔵穴150基、平安時代の竪穴住居跡30棟、大型の掘立柱建物跡1棟などが見つかりました。このことから、堰根遺跡は、縄文時代にはシカなどの動物を獲る狩猟場、ドングリやクリなどの食料を蓄えておく貯蔵域として使われ、平安時代になると、集落が営まれたようです。



大型掘立柱建物跡

だいたろういせき
台太郎遺跡第55次調査 (向中野)

台太郎遺跡は古代から中世、近世を中心とする集落遺跡です。今回の調査では、奈良時代の竪穴住居跡1棟、中世の溝跡2条、土坑12基、近世の掘立柱列1列、竪穴跡1基などが見つかりました。竪穴住居跡は9.5m×10.7mの大形のものです。北側にかまどがあり、主な柱は12口あります。須恵器の坏、土師器の坏と甕類、鉄製刀子、土製紡錘車(糸紡ぎの道具)、管玉、丸玉などが出土しました。竪穴住居跡の大きさや構造、出土遺物の内容から、地域の有力者の住居跡と考えられます。



奈良時代の大型竪穴住居跡

たかやぐら いせき
高櫓A遺跡第2次調査 (永井)

高櫓A遺跡は、宅地造成の事前調査を実施し、奈良時代の竪穴住居跡18棟、円形周溝2基などが見つかりました。奈良時代の竪穴住居跡は1辺約3~6mの方形で、北西側にかまどがありました。多くの炭化材や焼土が出土したことより、火事で焼けたと考えられますが、引っ越す時にわざと火をつけたのかもしれませんが。出土遺物は奈良時代の土器のほか、鉄製釣針や土製紡錘車などが出土しました。



調査区全景



~今年度調査した遺跡~

盛岡市内のおもな遺跡と時代

	時代	年代	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡
原始	旧石器時代	約12,000～ 草創期	館坂遺跡(前九年)	
		約8,500～ 早期	大新町遺跡(大新町)	
		約6,000～ 前期	大新町遺跡(大新町) 館坂遺跡(前九年) 庄ヶ畑A遺跡(庄ヶ畑) 新茶屋遺跡(山岸)	堰根遺跡(浅岸)
	縄文時代	約5,000～ 中期	上八木田遺跡(八木田) 畑遺跡(上米内)	
		約4,000～ 後期	大館町遺跡(大館町) 柿ノ木平遺跡(浅岸) 繫V遺跡(繫) 上米内遺跡(上米内) 川目C遺跡(川目) 湯沢遺跡(湯沢)	繫V遺跡(繫) 大館町遺跡(大館町) 堰根遺跡(浅岸)
		約3,000～ 晩期	大葛遺跡(浅岸) 落合遺跡(下米内)	川目B遺跡(川目)
弥生・古墳	弥生時代	約2,300～	上平遺跡(猪去) 手代森遺跡(手代森) 湯壺遺跡(湯沢) 川目A遺跡(川目)	
	古墳時代	約1,700～ 4～7世紀	手代森遺跡(手代森) 一本松遺跡(下米内)	
古代	奈良時代	約1,300～ 8世紀	永福寺山遺跡(下米内) 薬師社脇遺跡(浅岸) 上田蝦夷森古墳群(黒石野) 竹鼻遺跡(上鹿妻)	
		約1,200～ 9～12世紀	太田蝦夷森古墳群(上太田) 百目木遺跡(三本柳) 台太郎遺跡(向中野) 西鹿渡遺跡(三本柳)	台太郎遺跡(向中野) 野古A遺跡(本宮) 飯岡沢田遺跡(飯岡新田) 西鹿渡遺跡(三本柳) 高櫓A遺跡(永井)
中世	平安時代	約800～ 13～16世紀	志波城跡(下太田) 台太郎遺跡(向中野) 前野遺跡(浅岸) 乙部方八丁遺跡(乙部) 林崎遺跡(下太田) 稻荷町遺跡(稻荷町)	志波城跡(下太田) 堰根遺跡(浅岸) 稻荷遺跡(本宮) 宮沢遺跡(本宮) 松長根遺跡(乙部) 本宮熊堂B遺跡(本宮)
		鎌倉～ 戦国時代	約400～140年前 17～19世紀	落合遺跡(下米内) 里館遺跡(安倍館町) 安倍館遺跡(天昌寺町)
近世	江戸時代	約400～140年前 17～19世紀	盛岡城跡(内丸) 南部家墓所(北山)	櫛山田遺跡(山岸)

第5回 遺跡の学び館セミナー 「今年度の調査報告」

～繫V遺跡・台太郎遺跡・高櫓A遺跡・志波城跡・堰根遺跡～

■日時／平成17年3月5日(土) 13:30～15:00

■講師／遺跡の学び館職員

■会場／盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名) ※入場無料・直接会場にお越し下さい。

今年度の発掘調査の成果について、調査担当者がスライド等をまじえてわかりやすく解説します。